

令和2年度決算に係る

定期監査調書

令和3年5月

園芸試験場

## 目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等 .....	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況 .....	1頁
3	職員の定員、現員調べ .....	1頁
4	役付職員の調べ .....	1頁
5	主な事業に関する調べ .....	2頁
6	収入証紙取扱額調べ .....	5頁
7	現金の取扱状況 .....	5頁
8	財産に関する調べ .....	6頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
9	財産の貸付及び使用許可調べ .....	9頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
10	借受不動産明細調べ .....	10頁
11	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ .....	11頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
12	寄附物件の受納状況調べ .....	11頁
13	備品の処分状況調べ .....	12頁
14	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ .....	12頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
15	事業別予算執行状況調べ .....	13頁
16	農業機械の管理状況 .....	13頁
17	生産物(品)に関する調べ .....	15頁
18	試験研究調査事業別実施状況調べ .....	17頁
○	意見、要望等 .....	27頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項 該当なし

(2) 監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況  
該当なし

3 職員の定員、現員調べ

(令和3年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	2.4.1 現在	当該年度	2.4.1 現在	当該年度	2.4.1 現在	当該年度	2.4.1 現在	
定員	1	1	33	33	9	9	43	43	
現員	1	1	34	33	9	9	44	43	病虫害防除所兼務7名
過不足(△)	0	0	1	0	0	0	1	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	2	2	0	0	50	50	52	52	農業技術員50名 事務員 2名

4 役付職員の調べ

(令和3年5月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
場長	(兼)吉田 亮	3年	1月	(兼)病虫害防除所 次長
次長	福本 由美	0年	1月	
課長補佐	森脇 由博	1年	1月	出納員
果樹研究室長	山本 匡将	2年	1月	
野菜研究室長	白岩 裕隆	1年	1月	
花き研究室長	遠藤 英	0年	1月	
環境研究室長	米村 善栄	0年	1月	(兼)病虫害防除所 課長補佐
砂丘地農業研究センター所長	北山 淑一	3年	1月	
弓浜砂丘地分場長	井上 浩	0年	1月	
河原試験地長	石河 利彦	0年	1月	
日南試験地長	小谷 和宏	2年	1月	

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸 新品種の育成	8,117		700	7,417
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>本県特産の園芸作物は産地間競争が激化するなか、独自品種による高品質・生産安定が急務となっている。そこで、本県産園芸作物のブランドアップと、栽培が簡素化できる独自の優良品種を育成し、生産者所得の向上と鳥取県園芸の発展に資する。</p>				
(イ) 事業の実施状況				
<p>①ナガイモ (1u61) : 「ねばりっ娘 (園試育成、H15 登録)」の後継品種を目指し、特性データがそろいつつある。令和4年度に登録申請予定。</p> <p>②スイカ台木 (共台園試2号) : つる割病および黒点根腐れ病の両病害に耐病性を有し、食味の良いスイカが生産できる共台として令和2年度の選抜を完了した。令和3年度は「どんなもん台 (園試育成、H21 登録)」の後継品種として現地試験を予定している。</p> <p>③ブドウ (04HS-2) : 生食用の青ぶどうとして選抜してきた系統を、令和2年度より加工 (ワイン) 用として評価することに方針転換。最初の試験醸造を行った。</p>				
イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<p>①「1u61」の生育および芋品質調査を場内試験で行うとともに、現地適応性 (生産者5戸) について検討した。</p> <p>②「共台園試2号」の自殖8~10世代を比較。形質が固定されていることを確認し、品種候補とした。</p> <p>③「04HS-2」についてハウスおよび露地の2つの栽培方法で収穫適期の検討を行った。また、露地栽培で得られたブドウを用いて試験醸造を行った。</p>				
ウ 成果及び効果				
<p>①「1u61」の現地生産者による特性評価試験では、対照品種「ねばりっ娘」に比べて芋長・芋重ともに小型 (7~8割程度) の芋となる傾向が認められたが、掘り取り作業の省力化というメリットにつながると考えられた。またムカゴ (回収する必要がある) が着生しないため、収穫後の片付け時間の短縮が見込まれる。</p> <p>②「共台園試2号」をスイカ黒点根腐れ病の汚染圃場で栽培した結果、「どんなもん台」に比べて発病が少なく、スイカの大きさ、糖度ともに優れることが確認された。</p> <p>③ハウス栽培での「04HS-2」は、盆前が収穫適期であり、高糖度で食味が良いことを確認したが、植調剤による無核化が困難であった。露地栽培 (簡易トンネルの垣根仕立て) で収穫したものを9月上旬に試験醸造したが、やや収穫時期が遅く酸味が不足したため、収穫時期の再検討が必要だった。</p>				
エ 課題				
<p>① ナシ : 場内で有望と確認できた系統の一部を現地試験に移し、現地栽培樹での果実評価を開始する。</p> <p>② シンテッポウユリ : 現行品種に変わるオリジナル品種をめざし選抜を進める。</p> <p>③ イチゴ : 新品種候補「CK1号 (共同育成)」の特性解明および現地評価を進める。</p> <p>④ 白ネギ : 坊主不知 (ネギ坊主の出ない分けつネギ) の交配系統の選抜を進める。</p>				

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
野菜主要品目の生産拡大と高品質生産技術の確立	4,029	0	198	3,831
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを執行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>本県の野菜の主要品目（スイカ、ブロッコリー、キャベツ、ミニトマト、葉菜類、イチゴ、白ネギ等）の省力化技術の開発、施設（パイプハウス）栽培の高度利用と安定生産技術の確立、露地野菜の安定生産技術の確立、農家自身が実施可能な簡易土壌分析法の確立を図る。</p>				
(イ) 事業の実施状況				
<p>① スイカ強勢台木「ダイハード」における減肥料栽培</p> <p>② ドローン空撮画像の解析値を用いたブロッコリーの収穫予測</p> <p>③ 黒ぼく畑における白ネギ品種比較試験</p> <p>④ 農家が実施できる簡易土壌分析法の開発</p>				
イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<p>① 過去4か年の結果をもとに「ダイハード」の施肥窒素量3割削減の実証試験を実施した。</p> <p>② 園芸試験場で開発したブロッコリーの生育予測技術とドローン空撮を組み合わせた現地実証試験を実施した。</p> <p>③ 農家からの要望に対応して黒ボク畑における白ネギ品種比較試験を開始した。</p> <p>④ 簡易土壌分析法の土壌として、黒ボク土に加えて灰色低地土、褐色森林土、砂丘未熟土の分析に取り組んだ。</p>				
ウ 成果及び効果				
<p>① スイカのハウス及びトンネル栽培において台木「ダイハード」では、堆肥4mi/10a施用下で施肥窒素量を慣行の3割削減しても地上部の生育、果実の品質・収量に差は認められなかった。</p> <p>② ドローンの空撮画像による葉数とメッシュ農業気象データを用いて品種「おはよう」の収穫日を予測できた。また空撮には展葉6～9枚が適していることを明らかにした。</p> <p>③ 秋冬どりネギの品種比較試験（8品種）を行った結果、「THN-160」と「名月一文字」が有望であった。</p> <p>④ 鳥取県の野菜栽培土壌である黒ボク畑、灰色低地土、褐色森林土、砂丘未熟土において、窒素、リン酸、カリウムの簡易土壌分析の回帰式を明らかにした。</p>				
エ 課題（R3年度の主な試験内容）				
<p>① スイカでは、省力栽培法（無つる引き栽培）の現地実証、空洞果の発生抑制、高温期のハウス栽培での遮光技術、「共台園試2号」の実証試験を行う。</p> <p>② ブロッコリーの生育予測では、現地圃場において試験規模を拡大して、各作型において予測の実証を行う。</p> <p>③ 白ネギ品種比較試験では、選定した有望品種の特性を明らかにする。また黒ボク畑における初夏どり栽培技術について検討を行う。</p> <p>④ 簡易土壌分析法のマニュアル化を行い、場内での実証試験を行う。</p> <p>⑤ 抑制ミニトマトにおける夏期高温対策の試験を行う。</p>				

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
鳥取の花きとシバ栽培を支える安定生産技術の確立	4,236	0	0	4,236
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>本県花きの主要品目である切り花（ストック、シンテッポウユリ、アスター等）、花壇苗、実付き枝物、シバについての安定出荷技術、低コスト開花促進技術、省力高付加価値栽培、生産性向上技術の確立を図る。</p>				
(イ) 事業の実施状況				
<p>① ストックの品質向上のための施肥・灌水管理法の検討</p> <p>② シンテッポウユリの露地盆出荷作型における段咲き発生に及ぼす施肥量の検討</p> <p>③ 花壇苗の E0D 光照射+E0D 加温（保温）+わい化剤を組み合わせた早春出荷法の確立</p> <p>④ ノシバ‘グリーンバードJ’の沈み症発生原因の解明と対策法の確立</p>				
イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<p>① ストックの切り花伸長効果の高いFR照射栽培における出蕾以降の灌水が切り花品質に及ぼす影響を検討した。</p> <p>② シンテッポウユリの現地課題である段咲きと追肥の影響について量および時期について施肥試験を実施した。</p> <p>③ 花壇苗（ストック）にE0D光照射、加温（保温）処理に加え、わい化剤処理を行い、草姿への影響を検討した。</p> <p>④ ‘グリーンバードJ’現地課題である生理障害（沈み症）対策として、夏期の灌水が生育に及ぼす影響を検討した。</p>				
ウ 成果及び効果				
<p>① 発蕾以降pF2.5程度の灌水を行うことで、切り花重の向上が可能と明らかにした。</p> <p>② 6月中に上位葉の葉色（SPAD値）が約45、茎径が8.5mm以下になったタイミングで追肥を行えば、収穫まで肥効を切らさずに維持できることを明らかにした。</p> <p>③ 花壇苗（ストック）では、E0D光照射と保温（夜間密閉）にわい化剤を併用すると、到下日数が延長することなく、草姿をコンパクトにすることが可能と明らかにした。</p> <p>④ 秋以降の生育は土壌水分の影響を受け、生育はpF2前後では、促進、pF1.7前後では、抑制される可能性が示唆された。</p>				
エ 課題（R3年度の主な試験内容）				
<p>① ストック：より具体的な灌水方法や施肥量の指標化を目指す。</p> <p>② シンテッポウユリ：葉色・茎径を指標とした追肥方法の確立を目指す。</p> <p>③ 花壇苗：その他主要品目のE0D光照射、E0D保温、わい化剤による低コスト・栽培期間短縮効果を明らかにする必要がある。</p> <p>④ シバ：‘グリーンバードJ’の適正な施肥量・灌水量を明らかにする。</p> <p>⑤ 実付き枝物：ツルウメモドキの省力、高品質化が可能な樹形管理方法を検討する。</p>				

6 収入証紙取扱額調べ

有 ・  無

7 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況

(令和3年3月31日現在)

収入科目(節)	収入済額(円)	件数(件)	備考
生産物売払収入	2,341,200	2,891	生産品販売代金
合計	2,341,200	2,891	

イ つり銭の状況

(令和3年3月31日現在)

つり銭の有無	有	つり銭の額(円)	0
--------	---	----------	---

8 財産に関する調べ

(1)公有財産

ア 土地

(令和3年3月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		増減別	本年度異動状況				差引		備考		
			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)		異動日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m <sup>2</sup> )		価額(円)	
行政財産	(本場) 敷地・畑・道路	(北栄町由良宿字上ノノソノ2048外)	204,538.91	181,259,013	増加						204,538.91	181,259,013		
	(砂丘地農業研究センター) 敷地・道路	(北栄条町田井字沖浜527外)	9,881.00	不明	増加						9,881.00	不明		
	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883外)	34,465.72	不明	増加						34,465.72	不明		
	(弓浜砂丘地分場) 畑・宅地	(境港市大字中海干拓地15外)	29,018.52	61,040,000	増加						29,018.52	61,040,000		
	(河原試験地) 敷地・道路	(鳥取市河原町大字佐貫字丸橋527)	1,545.11	不明	増加						1,545.11	不明		
	小計		279,449.26	—							279,449.26	—		
	普通財産	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883-37外)	3,001.32	不明	増加						3,001.32	不明	
	小計		3,001.32	—							3,001.32	—		
	合計		282,450.58	—							282,450.58	—		



イ 建物

(令和3年3月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考	
			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減別	異動日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)		
行政財産	(本場)	(北栄町由良宿)	5,469.84	416,831,142	増加	H					H	5,469.84	416,831,142	
	機械格納庫外				減少	H					H			
	(西園ほ場)	(北栄町西園)	252.00	不明	増加	H					H	252.00	不明	
	管理器材庫外				減少	H					H			
	(倉吉ほ場)	(倉吉市大谷茶屋)	2,078.49	102,208,799	増加	H					H	2,078.49	102,208,799	
	本館外				減少	H					H			
	(弓浜砂丘地分場)	(境港市中海干拓地)	849.47	222,110,000	増加	H					H	849.47	222,110,000	
	本館外				減少	H					H			
	(河原試験地)	鳥取市河原町佐貫	413.37	28,027,487	増加	H					H	413.37	28,027,487	
	本館外				減少	H					H			
	(砂丘地農業研究センター)	(北栄町田井)	436.79	65,930,550	増加	H					H	436.79	65,930,550	
	本館外				減少	H					H			
	(日南試験地)	(日南町阿毘縁)	404.12	41,667,915	増加	H					H	404.12	41,667,915	
	本館外				減少	H					H			
合計			9,904.08	—								9,904.08	—	

ウ 山林 該当なし

エ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機) 該当なし

オ 物権 該当なし

カ 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等) 該当なし

キ 有価証券 該当なし

(2) 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 ・ 無

イ タクシーチケットの保有状況 該当なし

9 財産の貸付及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物  
ア 土地

(令和3年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用許可)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏	所名	
行政財産	電力供給施設	西園ほ場 北栄町西園	支線 1条	R2.3.2	H17.8.15	R2.4.1 ~ R7.3.31	19,030 年額	19,030	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 澤 幸夫	更新 ID19-00288705	
	"	倉吉ほ場 倉吉市大谷茶屋	電柱 6本 支柱 1本 支線 3条		H3.1.9			96,420			
計								0			
普通財産								590			
計								97,010			

イ 建物  
該当なし

(2) 物品  
該当なし

10 借受不動産明細調べ

区分	種別	借受(使用)目的	所在地	数量又は面積	面積	契約書の有無	契約の状況		借受先		備考
							借期	受間	単価	借料(円)	
(河原試験地) 土地	山林・畑	厩場用地	鳥取市河原町佐貫字丸橋564	7.608.00	7.608.00	有	S30.12.10 ～	月額・年額 無料	無料	鳥取市	
土地	畑	厩場用地	鳥取市河原町佐貫字狭間1827-1外	12.588.39		有	R3.3.22 ～ R7.3.21	月額・年額 無料	無料	鳥取市	
土地	田	厩場用地	鳥取市河原町佐貫字岡崎122-2外	3.305.00		有	R2.4.1 ～ R3.3.31	月額・年額 26,440	26,440	「個人」	
土地	畑	河原試験地 試験駐車場 用地	鳥取市河原町佐貫字園橋532	451.90		有	H.17.5.1 ～ R3.3.31	月額・年額 21,691	21,691	「個人」	
(本場) 土地	山林	排水施設用地	東伯郡北栄町由良宿字上ノヲ72040-3外	146.00		有	H.20.4.1 ～ R3.3.31	月額・年額 3,285	3,285	「個人」	
(日南試験地) 土地	畑・田	日南試験地 用地	日野郡日南町阿毘緑字七ヤケ田1201外	17.157.61		有	S.57.4.1 ～ H.34.3.31	月額・年額 無料	無料	日南町	
合計				41.256.90					51,416		

11 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積(m)	貸付(使用)料(月額)(円)
行政財産	本場 (東伯郡北栄町由良宿2048)	12.5	1,000
	砂丘地農業研究センター (東伯郡北栄町田井529)	12.5	1,000
	弓浜砂丘地分場 (境港市中海十拓地27)	12.5	1,000
	河原試験地 (鳥取市河原町佐貫527)	12.5	1,000
	日南試験地 (日野郡日南町阿毘緑1203-1)	12.5	1,000
普通財産			

(2) 減免の考え方  
河原試験地以外は減免  
(減免理由)

勤務地が地理的に不便な場所であり、最寄駅・バス停から距離が遠く、公共交通機関を利用した場合、通常の退庁時間においての退庁が困難となる。  
また、時間外勤務を要する場合、公共交通機関では対応できないため。

(3) 使用料の見直し  
令和元年10月1日実施

12 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

13 備品の処分状況調べ

(令和3年3月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	(保管換年月日) 取得年月日	不用決定年月日	処 分				備 考
			売却 棄却 の別	売却方法・ 棄却理由	処分 年月日	売却額・ 処分費用	
電気冷蔵庫	S56.5.27	R2.4.28	棄却	故障による使用不能		円	
超低温冷凍庫	H20.10.27	R2.9.15	棄却	超低温槽更新に伴い処分			
合 計						0	

14 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

有 ・ 無

(2) 物品の照合

有 ・ 無

16 農業機械の管理状況

(令和3年3月31日現在)

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数	修理費等円	左の主な内容	円	備考
(本場)								
動力運搬車	ヤンマー FG-182SD	H6.4.20	生産物運搬	11	0			
"	チクスイ ES-672MCDP	H22.6.18	"	35	44,187	アクセルワイヤーの交換 左フロントタイヤ車軸がたつき修	8,910 35,277	
"	チクスイキャニコム J-80DP	H26.6.4	"	67	0			
"	チクスイ J-80-DP	H12.5.9	"	26	40,480	タイヤ交換	40,480	
"	カワシマ RF-4WD-DV	H15.6.18	"	31	65,340	タイヤ交換	65,340	
"	カワシマ RX4WD-A ACK	H28.5.23	"	43	39,237	クラッチケーブル、ボルト交換	39,237	
"	カワシマ AC19D-4WD-SE	H24.8.9	"	39	20,328	走行テンションワイヤー調整 アクセルワイヤーの交換 走行クラッチワイヤー交換	2,750 4,950 12,628	
トラクター	ヤンマー F180DXUK	H4.8.20	耕耘ローター・除雪	4	567,556	作業機上下不良、自然降下、水平異常修理	567,556	
"	ヤンマー AF-30ML	H6.1.21	"	39	81,290	タイヤチューブ交換 バンク修理 タイヤ交換	18,040 3,850 59,400	
"	クボタ SL54HCMANP	H28.7.14	"	41	0			
"	ヤンマー 18PS AF218VPVKS4M	H14.6.10	"	13	39,512	ロータリー爪の交換	39,512	
"	ヤンマー 低床 RS-300FKVU	H14.6.10	"	102	37,978	セルモーター修理、バンク修理	3,850 34,128	
"	クボタ FT300 FQMAEQR5	H30.11.13	"	103	0			
"	ヤンマー EF220VUKS5ME	H16.6.24	耕耘・畝立 除雪	200	0			野花
スピードスプレー	昭信 3S-FSC1061	H25.6.11	薬散	25	35,640	シリンダー交換	35,640	
"	ヤンマー YAS1000DX	H7.7.31	"	34	4,400	バッテリーターミナルの不良	4,400	
"	昭信 3S-FSC615	H15.4.21	"	34	0			
管理機 (高畦整形機)	クボタ(土壤消毒機付) TI-55 NO. 1	H4.9.4	薬剤土壌灌注	5	8,140	薬液注入ホース交換	8,140	
ネギ用管理機	クボタ TA800-SCJV	H23.8.26	耕耘・畝立	21	16,093	キャブレター交換 爪摩耗による備品交換	9,350 6,743	
"	三菱マヒンドラ農機(株) MM158ASP	H30.12.27	耕耘・畝立	7	0			
草刈りバインダー	クボタ RJ55-TK	H17.7.29	草刈結束	0	0			
高所作業車	共立 KCG-3500SH/T	H5.5.17	樹園地刈込	13	7,568	ダンパゴム修理	7,568	
"	共立 KCG-3500H	H17.6.9	"	15.5	62,040	車輪の修繕	62,040	
乗用草刈機	オーレック RM90V	H9.8.14	"	16	0			
"	アグリップ RM-80JD	H11.2.16	"	25	0			
"	アテックス刈馬王 R-950HA	H19.7.4	"	32	0			
"	フジイ MB1021 X1	H23.6.9	"	36	111,210	スロットワイヤーの交換 Vベルト、走行ベルトの交換 アテンションブリー異音修理 刈刃回転軸ガタ修理	12,782 15,609 43,175 39,644	
芝用スイーパー	カワシマ LS805D	H14.4.25	芝の集草	16	0			
芝刈り機	パロネスLM81	H15.7.31	芝刈り	12	0			
除雪機	フドー SS138UH	H15.12.16	除雪	7	4,950	操作レバー修理	4,950	

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数日	修理費等円	左の主な内容円	備考
(砂丘地農業研究センター)							
トラクター	ヤンマー EF326XUQKC5	H15.9.29	圃場管理	32	0		
動力運搬車	チクスイ ELL801	H16.6.8	運搬	63	0		
"	ヤンマー CG-146D	H6.4.20	"	15	0		
動力噴霧器	ATC-433M	H20.12.3	薬散	57	0		
チツパシュレッダ	共立 P-1100C	H17.8.4	枝葉裁断	10	0		
管理機	クボタクローラー式 TA800-SCJV	H19.9.26	根切り 掘上	14	0		
(弓浜砂丘地分場)							
トラクター	クボタ KL24RFQMANP	H24.9.19	耕耘・畝立 除雪、残渣処理	89	601,711	パワーステアリング修理等 タイヤの交換 ロータリーの爪購入油 左オイル漏れ	464,970 56,232 33,616 46,893
"	クボタ GB16BMARF1	H9.10.15	耕耘・畝立	21	0		
ネギ定植機	みのる OP2100	H9.10.15	定植	0	0		
畝立機	イセキ KC750F02	S58.5.20	耕耘・畝立	0	0		
管理機	アグリップ NR605N	H19.6.1	土寄せ	69	126,086	ハンドルCOMP各ワイヤー交換オイル シール。車輪交換等	114,444 11,642
"	クボタ FTN7-Y	H26.11.28	土寄せ	47	0		
土壌消毒機	有光 SD-6V	H25.12.16	土壌消毒	10	0		
動力運搬車	ヤンマー クローラー CG162	H19.6.6	運搬・薬散	36	0		
動力運搬車	カワシマ ECZ1275-SEV	R2.2.6	運搬・薬散	60	0		
(河原試験地)							
トラクター	クボタ ZL2602DTMCSP	S57.6.11	耕耘	2	0		
動力運搬車	チクスイ ELL80IMPW	H31.3.11	生産物運搬・ 資材運搬	188	0		
スピードスプレヤー	丸山 SSA-a601	H10.5.28	薬散	10	0		
乗用草刈機	アグリップ RM85B	H12.5.2	草刈	7	0		
"	フジイ MF915X	H24.6.18	"	29	100,661	乗用モアミッション修理	100,661
"	オーレック RM951	H28.5.25	"	20	121,998	エンジンショートブロック取替等 ガバナ・クラッチ・上下ワイヤー交換 ナイフテンションブーリー等	55,693 39,696 26,609
耕耘機	ヤンマー YA-70DCA	H7.8.31	耕耘	0	0		
(日南試験地)							
トラクター	クボタ A-13PMXR1	H4.8.7	耕耘・畝立 薬散	19	0		
"	ヤンマー 21PS AF322	H14.5.31	"	84	83,050	バンク修理 タイヤ交換	8,250 74,800
管理機	クボタ TI-55SKBVI	H3.5.15	耕耘・畝立	8	0		
"	クボタ T-80	H7.9.21	"	14	0		
"	クボタ FTN-7Y	H22.7.6	溝きり・土寄せ	21	0		
動力三輪車	カワシマ SC1520DBV-SE	H6.7.4	運搬	74	0		
動力運搬車	カワシマ RF4WD-DV	H15.6.20	資材運搬	52	0		生工研より 配置換え
除雪機	フジイ SD1124DK-z	H30.10.29	除雪	13	0		
除雪機	ワド SMX1392-N	H25.12.13	除雪	3	0		生工研より 配置換え
動力噴霧器	丸山 MS415CA-1	H25.12.13	薬散	26	0		
計					2,368,062		



生産部門	品名種類	作付面積 m <sup>2</sup>	生産計画 数量 kg	前年度か らの繰越	生産数量		場内		売却		目的外使用		廃棄		計		分類 換	差引 残	備考
					購入 kg	計 kg	使用 kg	数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg			
野菜研究室	スイカ	3,500.0	16,000.0	0.0	14,175.0	14,175.0	0.0	8,679.5	901,812	0.0	0.0	0.0	5,495.5	14,175.0	901,812	0.0	0.0		
	小玉スイカ	300.0	750.0	0.0	733.0	733.0	0.0	402.0	48,300	0.0	0.0	0.0	331.0	733.0	48,300	0.0	0.0		
	中玉トマト	20.0	150.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		
	ミニトマト	540.0	1,200.0	0.0	257.0	257.0	0.0	140.8	70,400	0.0	0.0	0.0	116.2	257.0	70,400	0.0	0.0		
	白ネギ	200.0	200.0	0.0	3,110.0	3,110.0	0.0	2,249.0	174,600	0.0	0.0	0.0	861.0	3,110.0	174,600	0.0	0.0		
	イチゴ	600.0	1,000.0	0.0	1,066.3	1,066.3	0.0	916.2	846,200	0.0	0.0	0.0	150.1	1,066.3	846,200	0.0	0.0	単位:本	
	イチゴ苗	187.2	850.0	0.0	906.0	906.0	0.0	906.0	362,400	0.0	0.0	0.0	0.0	906.0	362,400	0.0	0.0		
	フロッコリー	3,000.0	2,000.0	0.0	1,863.0	1,863.0	0.0	1,275.7	252,150	0.0	0.0	0.0	587.3	1,863.0	252,150	0.0	0.0		
	コマツナ	400.0	280.0	0.0	266.0	266.0	0.0	243.6	60,900	0.0	0.0	0.0	22.4	266.0	60,900	0.0	0.0		
	キャベツ	1,000.0	2,500.0	0.0	2,340.0	2,340.0	0.0	1,927.5	118,350	0.0	0.0	0.0	412.5	2,340.0	118,350	0.0	0.0		
チンゲンサイ	100.0	50.0	0.0	10.0	10.0	0.0	5.6	1,400	0.0	0.0	0.0	4.4	10.0	1,400	0.0	0.0			
小計	9,847.2	24,980.0	0.0	24,726.3	24,726.3	0.0	16,745.9	2,836,512	0.0	0.0	0.0	7,980.4	24,726.3	2,836,512	0.0	0.0			
果樹研究室	なつひめ	1,200.0	3,700.0	0.0	3,754.2	3,754.2	293.7	2,859.0	1,514,033	0.0	0.0	0.0	601.5	3,460.5	1,514,033	0.0	0.0		
	夏さやか	1,800.0	2,000.0	0.0	1,125.0	1,125.0	292.8	430.0	142,300	0.0	0.0	0.0	402.2	832.2	142,300	0.0	0.0		
	秋甘泉	1,200.0	3,000.0	0.0	3,323.8	3,323.8	470.7	2,172.0	1,197,251	0.0	0.0	0.0	681.1	2,853.1	1,197,251	0.0	0.0		
	新甘泉	2,700.0	9,000.0	0.0	5,788.8	5,788.8	1,300.9	3,878.0	3,359,583	0.0	0.0	0.0	609.9	4,487.9	3,359,583	0.0	0.0		
	二十世紀	6,500.0	16,250.0	0.0	14,056.3	14,056.3	503.0	13,080.8	7,737,616	0.0	0.0	0.0	472.5	13,553.3	7,737,616	0.0	0.0		
	あきつぎ	400.0	1,000.0	0.0	740.8	740.8	71.9	592.0	309,463	0.0	0.0	0.0	76.9	668.9	309,463	0.0	0.0		
	玉秋	700.0	3,500.0	0.0	3,444.6	3,444.6	724.3	2,582.4	1,313,506	0.0	0.0	0.0	137.9	2,720.3	1,313,506	0.0	0.0		
	香水	125.0	700.0	0.0	403.0	403.0	0.0	262.0	78,600	0.0	0.0	0.0	141.0	403.0	78,600	0.0	0.0		
	秋榮	125.0	200.0	0.0	218.4	218.4	52.7	139.0	32,400	0.0	0.0	0.0	26.7	165.7	32,400	0.0	0.0		
	その他ナシ	1,980.0	3,000.0	0.0	1,226.9	1,226.9	360.8	590.0	172,600	0.0	0.0	0.0	307.1	866.1	172,600	0.0	0.0	夏さやか、日本、寿新水、新興 他	
花き研究室	輝太郎	2,000.0	1,500.0	0.0	1,445.9	1,445.9	240.2	928.0	371,200	0.0	0.0	0.0	277.7	1,205.7	371,200	0.0	0.0		
	西条	500.0	500.0	0.0	605.3	605.3	250.0	195.0	39,000	0.0	0.0	0.0	160.3	355.3	39,000	0.0	0.0		
	富有	225.0	200.0	0.0	129.6	129.6	0.0	101.0	20,200	0.0	0.0	0.0	28.6	129.6	20,200	0.0	0.0		
	その他カキ	500.0	100.0	0.0	34.6	34.6	7.7	25.0	5,000	0.0	0.0	0.0	1.9	26.9	5,000	0.0	0.0	太雅、太秋、太豊、麗玉	
	リンゴ	300.0	300.0	0.0	225.0	225.0	153.1	58.0	11,600	0.0	0.0	0.0	13.9	71.9	11,600	0.0	0.0		
	かんきつ類	1,500.0	1,000.0	0.0	759.4	759.4	556.2	162.3	33,700	0.0	0.0	0.0	40.9	203.2	33,700	0.0	0.0		
	小計	21,755.0	45,950.0	0.0	37,281.6	37,281.6	5,278.0	28,023.5	16,338,052	0.0	0.0	0.0	3,980.1	32,003.6	16,338,052	0.0	0.0		
	シンデレラウリ	400.0	4,000.0	0.0	2,488.0	2,488.0	0.0	794.0	41,050	0.0	0.0	0.0	1,694.0	2,488.0	41,050	0.0	0.0	単位:本	
	ストック	300.0	2,500.0	0.0	5,030.0	5,030.0	0.0	1,596.0	77,700	0.0	0.0	0.0	3,426.0	5,030.0	77,700	0.0	0.0	単位:本	
	小計	700.0	6,500.0	0.0	7,518.0	7,518.0	0.0	2,390.0	118,750	0.0	0.0	0.0	5,120.0	7,518.0	118,750	0.0	0.0		
環境研究室	アスバラガス	400.0	150.0	0.0	179.1	179.1	0.0	76.0	89,457	0.0	0.0	0.0	103.1	179.1	89,457	0.0	0.0		
	サトイモ	100.0	100.0	0.0	167.0	167.0	0.0	90.0	9,000	0.0	0.0	0.0	77.0	167.0	9,000	0.0	0.0		
	スイートコーン	200.0	200.0	0.0	340.1	340.1	0.0	281.0	56,200	0.0	0.0	0.0	59.1	340.1	56,200	0.0	0.0		
	キャベツ	20.0	50.0	0.0	61.3	61.3	0.0	60.0	3,600	0.0	0.0	0.0	1.3	61.3	3,600	0.0	0.0		
	タマネギ	200.0	30.0	0.0	35.1	35.1	0.0	22.0	1,100	0.0	0.0	0.0	13.1	35.1	1,100	0.0	0.0		
	ナガイモ	400.0	1,000.0	0.0	133.0	133.0	0.0	130.0	22,680	0.0	0.0	0.0	3.0	133.0	22,680	0.0	0.0		
	ハクサイ	15.0	50.0	0.0	46.5	46.5	0.0	40.0	4,000	0.0	0.0	0.0	6.5	46.5	4,000	0.0	0.0		
	ピーマン	100.0	50.0	0.0	73.2	73.2	0.0	48.5	9,700	0.0	0.0	0.0	24.7	73.2	9,700	0.0	0.0		
	ナス	15.0	15.0	0.0	57.0	57.0	0.0	31.5	6,300	0.0	0.0	0.0	25.5	57.0	6,300	0.0	0.0		
	小計	1,270.0	1,680.0	0.0	1,092.3	1,092.3	0.0	779.0	202,037	0.0	0.0	0.0	313.3	1,092.3	202,037	0.0	0.0		



18 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年3月31日現在)

事業名	(単)鳥取のナシ産地活性化を目指す栽培技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	令和元年度～令和5年度		(予算額) 支出済額	(6,831,000円) 6,196,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<b>1. 新品種を核としたナシ生産技術の確立</b>				
(1) '新甘泉' 果実の変形硬化症状の原因究明	本場果樹ほ場	'新甘泉' 4樹	変形硬化は果実の一部が萎縮・硬化する症状で、'新甘泉' ではとくに発生が多く、品質低下要因として問題になっている。本年度はその発生要因を明らかにする。	(成果)これまで、果実の形がよく判別できるようになるまで摘果作業の時期を遅らせることで、変形硬化果実を減らせることを当面の対策として明らかにしていたが、新たに、発生要因は後天的なものではなく、幼果の段階ですでに生じた維管束の異常によるものであることを明らかにした。  (課題)試験としては完了とする。症状の発生は先天的なものであり、栽培技術によって減少、改善できるものではないことから、収穫果実へ混入する変形硬化果実を減少させる方法として、前述の対策を広く発信する。
(2) 環状剥皮処理による '新甘泉' 果実の熟期促進(現地試験)	鳥取市佐治町現地ほ場	'新甘泉' 6樹	'新甘泉' は収穫適期が短く、選果場稼働期間も短い。標高が高い果樹園では選果期間中に出荷できない事例があるため、果実の熟期を促進する方法を明らかにする。本年は現地ほ場での効果を検討する。	(成果)7月中旬に樹主幹部に環状剥皮を行うことで、果実の糖度・果色向上が促進され、収穫時期を前進化することが現地試験においても実証された。  (課題)すでに参考情報として生産現場には提供しており、現地試験においても同様の効果が得られたことが確認されたことで、試験としては完了とする。
<b>2. 新時代を拓く画期的栽培技術の確立</b>				
(1) 果樹園の中間管理に適した樹体管理方法の確立	本場果樹ほ場	'ゴールド二十世紀' 2樹	果樹園を新規栽培者に承継するまでの、省力的でかつなるべく生産力を低下させない管理方法として、側枝(結果枝)の全切除の実用性を明らかにする。	(成果)側枝を全切除することで、人工受粉・摘果・袋かけ・収穫といった、果実生産に必要な作業を大幅に省略することができ、側枝再養成開始4年目には、切除前と同等の収穫量を回復でき、果樹園承継までの実用的な管理方法であることを明らかにした。  (課題)試験としては完了とする。参考情報として提供する予定。
(2) エテホン処理による輸出用 '新興' 穂木の花芽着生率向上	本場果樹ほ場	'新興' 3樹	エテホンを散布することで、ナシの花芽着生率が向上することが知られているが、農薬登録上これを目的とした使用ができないことから、適用拡大に向けた試験を行う。	(成果)前年までの結果もふまえ、エテホンの散布は '新興' の花芽着生率を向上させる効果あることが明らかとなった。また、適用拡大に必要な試験事例数が得られ、使用目的の適用拡大が農薬メーカーによってなされることになった。  (課題)穂木採取に適した省力的樹形と、輸出の基準に適合したサイズの枝を効率的に発生させる方法の検討を行い、エテホン処理の技術とあわせて、さらに単位面積あたり収量を増加させる総合技術を確立する。
<b>3. 気候変動への適応技術の確立</b>				
(1) シアナミド散布による '王秋' の開花時期調整	本場果樹ほ場	'王秋' 4樹	'王秋' は休眠打破に必要な低温の要求量が大きく、暖冬年は低温の不足により開花の遅延・バラツキが生じることから、シアナミドの散布による開花時期の前進化を検討する。	(成果)12～1月が高温で推移したとする想定で、2月以降にシアナミドを散布したところ、2月中下旬の散布により、開花を前進化させる効果があることを明らかにした。  (課題)気象条件が毎年異なることから、生産現場への情報提供には、暖冬年における試験事例を複数例積み重ねる必要がある。
(2) ナシにおける施肥時期の検討	本場果樹ほ場	'おさゴールド' 30樹	現行の施肥体系において、施肥効率が悪いと想定される時期の施肥をカットしても、現行並みの収穫量・果実品質が得られるか検討し、施肥方法の改善につなげる。	(成果)元肥(12月)、夏肥(6月)およびその両方のカットを開始して14年目となったが、収穫量や果実品質に大きな影響は認められなかった。  (課題)試験樹の樹齢が20年を経過したことから、今後は生産盛期を超えた樹における影響について検討を行う。

(令和3年3月31日現在)

事業名	(委)新農薬適用試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成10年度～		(予算額) 支出済額	(4,518,000円) 4,518,000円
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果樹病害虫の防除 薬剤の実用化	本場 河原試 験地	ほ場34a	果樹の新規薬剤の防 除効果等を検討し、各 果樹の防除暦を編成 する。	(成果) ・ナシの黒斑病、黒星病、シンクイムシ類、ハマキムシ類な どについて新規薬剤の効果が明らかとなった。実用性の高 い薬剤は、県基準防除暦等に記載した。 (課題) ・農薬の再評価制度導入に対応した農薬適用拡大推進。
野菜・花き病害虫 の防除薬剤の実用 化	本場 弓浜砂 丘地分 場	ほ場62a	野菜、花きの新規薬剤 の防除効果等を検討し、有効薬剤の適用拡 大を図る。	(成果) ・スイカの菌核病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、ネ ギの黒腐菌核病、ネギのアザミウマ類、ハモグリバエ類、ブ ロッコリーの黒すす病、ヨトウムシ、ナガイモの炭疽病等に 対する新規薬剤の効果が明らかになった。 (課題) ・本県特産農産物の生産上問題となる病害虫の更なる農薬 適用拡大推進。

(令和3年3月31日現在)

事業名	(委)農業における花粉媒介昆虫 等の積極的利活用技術の開発		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成30～令和3年度		(予算額) 支出済額	(1,215,000円) 1,215,000円
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシの花粉媒介昆 虫相の解明と送粉 効率の高い昆虫の 探索および評価	本場	ほ場70a	ナシ自然受粉樹の結 実要因を明らかにす る。 ナシの開花時期に多 い昆虫種群を明らか にする。	(成果) ・ナシ園で訪花昆虫種の把握は、簡易見とり法が簡単で あったが、見とり時間の条件設定が難しく、TP設置法が適 していた。捕獲数は地点間で差があった。 (課題) ・年次、地域間差等の確認とデータ蓄積。

(令和3年3月31日現在)

事業名	(単)園芸作物における病害虫防除対策		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成23年開始、令和元年度、課題組み替え統合～令和4年度		(予算額) 支出済額	(4,810,000円) 3,900,540円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ブロッコリーの難防除病害に対する防除対策の確立	本場	ほ場6a	ブロッコリー黒すす病の実態を明らかにする。	(成果) ・各生育段階で防除効果の高い薬剤を選定し、防除体系の検討した。 (課題) ・防除体系を組み立て、経年で実証する必要がある。
アスパラガス病害対策	本場	ほ場6a ハウス3a	アスパラガス茎枯病、褐斑病について、有効な防除対策を確立する。	(成果) ・褐斑病に対して防除効果の高い薬剤を選定した。 ・茎枯病に対して雨よけ栽培は被害軽減効果が高いことを確認し、また、防除効果の高い体系を示した。 (課題) ・茎枯病甚発生ハウスの対策
ナシの難防除病害虫に対する防除技術の確立	本場 現地ほ場	ほ場40a 現地ほ場30a	ナシの黒星病、ハダニ類等に対する防除対策を確立する。	(成果) [黒星病] ・本県オリジナル品種、'新甘泉'果実において、防除効果高い薬剤候補を選定した。 ・春季防除の候補薬剤を選定した。 [ハダニ類] ・ニセナシサビダニの発生量および被害の抑制には落葉期および発芽前の3種混用散布が効果的であった。 (課題) ・黒星病の被害軽減には総合的な対策が必要である。 ・ナシ大苗用防除体系における殺ダニ剤の組み立てが必要である。

(令和3年3月31日現在)

事業名	(単)産地ニーズに応える特色ある鳥取型ブドウ栽培技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	平成29年度 ～ 令和3年度		(予算額) 支出済額	(1,906,000円) 1,892,430円	
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う場 所	試験研究 調査の対象・数量・ 範囲	本年度の試験研究 調査等の目標		試験研究調査の成果・課題
1 'シャインマスカット'に続く有望品種の検討					
(1)'シャインマスカット'を親とする新品種 の特性確認	砂丘地 農業研究 センター	砂丘地研 究センターほ 場 4品種× 各1樹 (1.3a)	4品種(‘コビー’・‘ヌーベル ローズ’・‘マスカ・サーティン’・‘マ スカット・ワール’)の特性を 確認する。		(成果)‘コビー’は開花前のジベレリン3ppm散布と、8cm整形により 房重は500g程度となり出荷に適した房型となった。‘ヌーベルローズ’ は果色は赤かったが着色不良の果粒が混在した。‘マスカ・サーティ ン’は無核率が100%で盆前出荷が可能な品種だった。‘マスカット・ノ ワール’は果色は黒で良好だったが、無核率がやや低く種子が残る 傾向が見られた。  (課題)継続 ‘コビー’・‘ヌーベルローズ’は果粒の着色がやや不安定のため、 着色促進について検討する。‘マスカ・サーティン’は本県での適熟期 を検討する。‘マスカット・ワール’は無核率向上について検討する。
(2)第15回ブドウ系 統適応性検定試 験	砂丘地研 究センターほ 場	4品種×1 樹(1.6a)	‘安芸津31、32、33、34 号’の4系統について、 本県での栽培適性の検 討を行う。植栽3年目の 果実品質を調査する。		(成果)‘安芸津31号’の果皮色は淡紅、平均房重は約250g、粒重 は約8g。‘安芸津32号’の果皮色は紫赤、平均房重は210～ 310g、粒重は10～12g。‘安芸津33号’の果皮色は赤、平均房重 は360～410g、粒重は8～9g。‘安芸津34号’の果皮色は紫黒、平 均房重は約370～380g、粒重は11～12g。  (課題)継続 継続して調査し、各系統の特性を明らかにしながら、本県での適 応性を検討する。
2 基幹品種の栽培技術の確立					
(1)‘テラウェア’のジ ベレリン1回処理技 術の検討	砂丘地 農業研究 センター	砂丘地研 究センターほ 場 2樹(0.8a)	省力化の期待できるジ ベレリン1回処理について 検討する。		(成果)果房長を10cm整形とすることで、8cm整形よりもやや大き めの房となったが、慣行法と比較する房重は劣った。ジベレリン1回 処理は、2回処理と同等で無核化が可能であった。  (課題)継続 終了。
(2)‘ヒオーネ’の台木 による生育特性の 比較	砂丘地研 究センターほ 場	4品種×各 2樹(1.6a)	‘ヒオーネ’の初期生育や 果実品質等に適する台 木を検討する。		(成果)収量は慣行‘5BB’と比較して‘3309’の方が多かった。 ‘3309’は樹冠拡大が早かったことに加え、粒重が重いので収量 が増加したと考えられた。  (課題)継続 果実品質と収量の推移を継続調査する。
3 'シャインマスカット'高品質果実生産技術の確立					
(1)フラスター液剤 による省力的な副 梢管理法の検討	砂丘地 農業研究 センター	砂丘地研 究センターほ 場 2樹(1.2a)	‘シャインマスカット’は樹勢が 旺盛で新梢管理に労力 を要するため、フラス ター液剤散布による副 梢管理について検討す る。		(成果)フラスター処理1回区と2回区では花振り防止、作業時間 の短縮への効果は認められなかった。花穂の軸長は、2回区で 短くなったが作業上問題はなかった。また、収穫期の果実品質に 差は無かった。  (課題)継続 終了。
(2)台木による生育 特性の比較	砂丘地研 究センターほ 場	4品種×各 1樹(0.8a)	‘シャインマスカット’の初期生 育や果実品質等に適す る台木を検討する。		(成果)慣行‘5BB’と‘5C’は果色の進み、糖度上昇が早く、熟期 が早まる台木品種であった。また、収量は供試した台木品種で差 異は無かった。  (課題)継続 果実品質と収量の推移を継続調査する。
4 鳥取型低コスト単棟ハウスにおける栽培技術の確立					
(1)植付け法、幼木 の樹形等の検討	砂丘地 農業研究 センター	砂丘地研 究センターほ 場 2.8a	野菜で利用されている 低コスト単棟ハウスで、 ブドウ栽培を行う場合に 適する樹形を‘シャインマ スカット’で検討する。		(成果)植栽4年目で全ての樹形で結実した。1樹当たりの収量は H4本(慣行)およびH6本で20kg以上。H8本、一文字5m、一 文字10m、オールバックでそれぞれ10kg以上。ポットオールバ ック、ポット5BB、ポット5Cともに2～4kgだった。  (課題)継続 各樹形の収量の推移を調査する。
(2)ハウス内の棚 上と棚下の気温の 推移調査			低コスト単棟ハウスは換 気装置が十分でないた めハウス内気温の調節 ができない懸念がある ため、ハウス内の棚上と		(成果)低コスト単棟ハウスは連棟ハウスと比べると、棚上・棚下と ともに気温は高い傾向で、低コスト単棟ハウス内で比較すると棚上 の方がやや高かった。  (課題)継続 終了。

(令和3年3月31日現在)

事業名	(単)気候・風土に適応した砂丘ラッキョウ・ナガイモの安定生産技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	平成31年度 ～ 令和5年度		(予算額) 支出済額	(5,507,000円) 5,402,501円	
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 ラッキョウにおける安定生産技術の確立					
(1) 収量に影響する重点施肥時期の解明	砂丘地農業研究センター・西園ほ場・現地ほ場	鳥取市福部町ほ場450㎡	9月中旬～10月下旬の重点施肥および基肥全量施用が生育、収量に及ぼす影響を、旧慣行を対照として検討する。	(成果)本試験では供試した種球がウイルス感染していたため、多分けつ・小球、鱗茎乾物率低下になったものと考えられたため、各種肥料が収量に及ぼす影響を判断することができなかった。 (課題)ウイルスの影響の少ない健全種球を用いて再検討する。	
(2) 現地優良系統の選抜と特性の解明 ア 早だし栽培に適した現地優良系統の特性調査	砂丘地農業研究センター・西園ほ場・現地ほ場	鳥取市福部町ほ場50㎡	早期収穫時(5月中旬出荷想定)に乾物率が高く収量性が高い系統を選抜する。昨年までに四次選抜した5系統について収量特性を調査する。	(成果)収量性は系統間に差異はなかったが、早期出荷前(4月20日)の鱗茎乾物率が高かった'H2405'、'在来'、'H2502'は早期に乾物率が高まる可能性が考えられた。 (課題)早期収穫時に鱗茎乾物率が高かった3系統について、収穫期別の収量特性及び熟度を検討する。	
イ 中部地区に適した現地優良系統の特性調査	砂丘地農業研究センター・西園ほ場	48㎡	現地有望系統'KSM'について、現地慣行系統の'F'と収量性等の特性比較を行う。	(成果)'KSM'は'F'よりも鱗茎重が軽く、収量性が低かったことから、'F'と比べて優位性は見出せなかった。 (課題)終了。	
(4) 中部地区における施肥の検討 ア 秋季重点施肥及び春肥の検討	西園ほ場	1.2a	春肥、秋季重点施肥、春肥と秋重点施肥を組み合わせた場合の収量性等への効果を検討する。	(成果)秋季重点施肥は鱗茎重が慣行と同等で肥料費は慣行より安価なため、効果的な施肥法だと考えられた。また、2月追肥は地上部の生育が増加した。 (課題)定植期の早晚により秋季重点施肥の効果に差異があるかどうかを確認する。	
イ 基肥全量施用による省力施肥法の検討	西園ほ場	1.2a	施肥の省力化のために被覆窒素入り複合肥料を用いた基肥全量施用区について慣行区と収量性と比較する。	(成果)収量に差異はなく、施肥回数削減による省力化が可能と考えられた。 (課題)終了。	
2 'ねばりっ娘'専用栽培技術の確立					
(1) 'ねばりっ娘'栽培に最適な施肥法の確立		西園ほ場1.6a	'ねばりっ娘'に適した肥培管理を検討するため、肥培管理を変え(追肥時期前進)、生育、収量、品質に及ぼす影響について調査する。	(成果)追肥の前倒施肥の効果をも5か年検討した結果、慣行施肥法と比較して収量は同等で、アク抜けが早まり、乾物率が高まった。 (課題)終了。	
(2) 縦割れ発生原因究明と低減技術の確立 ア 土壌の差異による影響		由良現地ほ場1.4a 西園ほ場0.8a	縦割れ発生の多いほ場と少ないほ場において同様の栽培管理(慣行施肥、増肥)を行い、縦割れの発生状況や土壌条件の差異を調査する。	(成果)縦割れ発生数の多いほ場において'ねばりっ娘'の増肥試験を4か年検討した結果、増肥は縦割れ発生を助長すると考えられた。 (課題)継続調査が必要。	
イ 土壌pHの差異による影響		西園ほ場1.0a	土壌pHの違いが縦割れ発生の発生、品質、収量に及ぼす影響を検討する。	(成果)縦割れ発生の発生は施肥量に関係なく土壌pHが上昇すると発生が認められた。土壌pH、施肥量の違いは芋収量に影響を及ぼさなかったが、芋の乾物率は土壌pHが上昇すると増加した。 (課題)継続調査が必要。	
(3) 出荷後に発生する腐敗の原因究明 ア つる切り時期が保存期間中の芋に及ぼす影響		西園ほ場1.8a	異なるつる切り時期が収穫時の芋品質に及ぼす影響および冷蔵保存後の芋品質を経時的に調査する。	(成果)冷蔵保存後の乾物率はつる切り時期が遅いほど高く、冷蔵保存による乾物率への影響はなかった。 (課題)継続調査が必要。	
イ つる切り時期及び施肥方法が保存期間中の芋に及ぼす影響		西園ほ場2.0a	異なるつる切り時期が収穫時および冷蔵保存後の芋品質に及ぼす影響を調査する。加えて、追肥前倒処理の影響も検討する。	(成果)つる切り時期が遅くなると芋乾物率が高まった。また、追肥前倒処理により慣行施肥法と比較して芋乾物率が高まった。 (課題)継続調査が必要。	

(令和3年3月31日現在)

(4)ムカゴ着生低減方法の検討 ア 植物生長調整剤による影響	西園ほ場 0.5a	植物調整剤の使用が‘ねばりっ娘’のムカゴの発生に及ぼす影響を検討する。	(成果)植物生長調整剤(ジベレリン50ppm溶液)を茎葉散布する時期を検討したが、いずれの処理区とも慣行区と比較して低減効果が認められなかった。 (課題)終了。
イ かん水間隔による影響	砂丘地農業研究センターほ場 0.4a	かん水間隔の違いが‘ねばりっ娘’のムカゴの発生に及ぼす影響を検討する。	(成果)かん水間隔を慣行の2日に1回から4日に1回と長くすると、芋の収量には影響せず、ムカゴ着生重、粒数ともに減少し、着生低減効果が認められた。 (課題)継続調査が必要。
(5)バックホウ収穫による収量・品質経年調査	西園ほ場 1.0a	バックホウ収穫(植え列でない通路部分を収穫時に崩す)による芋の収量及び品質を経年調査する。	(成果)継続3年目では、バックホウ収穫により通路部の土壌硬度が低下してきたが、芋の収量及び品質は同等だった。 (課題)引き続き経年調査が必要。
(6)深耕・収穫作業が土壌物理性に及ぼす影響	西園ほ場 1.0a	深耕や収穫に使用する作業機の違いが土壌物理性に及ぼす影響について検討する(芋は未作付け)。	(成果)2月下旬に実施した深耕の効果は、深耕初年でも収穫期まで継続すると考えられた。また、バックホウ収穫により植付列部の土壌が締まる傾向があり、通路部の土壌硬度は大きく減少した。 (課題)引き続き経年調査が必要。
<b>3 ナガイモ黒陥没症対策技術の確立</b>			
(1)発生原因の究明と低減技術の確立 ア かん水間隔による影響	砂丘地農業研究センターほ場 1.7a	かん水間隔の違いが黒陥没症の発生等の品質および収量に及ぼす影響を検討する。	(成果)慣行かん水区(2日に1回かん水)と比較して4日に1回かん水区、無かん水区ともに黒陥没症の発生に差異はなく、かん水と黒陥没症の発生に関係性は認められず、昨年の結果と異なった。 (課題)継続調査が必要。
イ 土壌改良資材による影響	東園現地ほ場 1.2a	土壌改良資材3年連続施用による黒陥没症発生低減効果を検討する。	(成果)土壌改良資材施用3年目におけ黒陥没症の発生が無施用区と比較して減少する傾向が見られ、さらに、褐変症の発生についても減少した。 (課題)継続調査が必要。
ウ 土壌の差異による影響	西園ほ場 0.5a 東園現地ほ場 0.5a 由良現地ほ場 0.7a	複数ほ場で同様に栽培し、黒陥没症の発生状況や土壌条件の差異を調査する。	(成果)黒陥没症及び褐変症発生株率はほ場による差が見られたが、ほ場の土壌水分含量との間には相関関係は見られなかった。発生株率の高かったほ場は土壌pHが低く、定植時、植付列の土壌貫入硬度は深さ30~60cmにおいて他のほ場より高かった。 (課題)継続調査が必要。
エ 通路深耕による影響	西園ほ場 0.3a	通路部分を定植前に深耕することが黒陥没症の発生に及ぼす影響を調査する。	(成果)通路深耕区は慣行区と比較して黒陥没症の発生株率が低く、乾物率は高く、芋重は同等だった。 (課題)処理によって生育にばらつきが生じたため再検討を要する。
オ 現地発生ほ場の実態調査	現地生産者ほ場 7カ所	腐敗症状の発生が多いほ場5筆と少ないほ場2筆について土壌物理性を調査する。	(成果)腐敗症状発生の多少にかかわらず三相分布、保水量、透水係数、粒径組成に一定の傾向は見られなかった。土壌硬度については、発生が多いほ場2か所で通路部の深さ30cmより下層で硬度の上昇が認められた。 (課題)継続調査が必要。
<b>4 環境に配慮した施肥法の開発</b>			
(1)ラッキョウにおける特別栽培の検討	西園ほ場 1.6a	‘ラクダ系’および園試育成品種‘レジスタファイブ’において、特別栽培法について検討する。	(成果)特別栽培区の収量は、‘ラクダ系’、‘レジスタファイブ’ともに慣行区の9割程度だった。また、各区の病害虫の発生に差異はなかった。 (課題)継続調査が必要。



(令和3年3月31日現在)

事業名	(単)白ネギを核とする弓浜砂丘地の野菜栽培技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場	
実施計画期間	平成31年度～令和4年度		(予算額) 支出済額	(2,344,000円) 2,067,642円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
新たな病害虫蔓延防止対策技術の確立	弓浜砂丘地分場、現地ほ場	分場ほ場3a 現地ほ場 3a×2か所	<ul style="list-style-type: none"> <li>春どり作型におけるネギ黒腐菌核病防除技術の確立</li> <li>秋冬どり作型におけるネギ黒腐菌核病防除技術の確立</li> <li>ネギさび病、葉枯病に対する新規薬剤の薬効調査</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春どり作型では、パレード20フロアブル育苗箱灌注＋10月中旬パレード20フロアブル散布で黒腐菌核病の防除効果が高かった。</li> <li>秋冬どり作型では、パレード20フロアブル育苗箱灌注＋9月中旬セイビアーフロアブル散布で黒腐菌核病に対する防除効果が高かった。</li> <li>ネギさび病に対して、メジャーフロアブルとオンリーワンフロアブルの混用で効果が高く、同時期に発生する葉枯病に対しても効果が認められた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネギ黒腐菌核病の防除体系のマニュアル化(継続)</li> <li>ネギ白絹病に対する新規薬剤の薬効調査</li> <li>スリップスに対する薬剤防除体系</li> </ul>	
周年出荷体系強化に向けた栽培技術の確立	弓浜砂丘地分場	分場ほ場 50a	<ul style="list-style-type: none"> <li>作型別適品種の選定</li> <li>5月どり一本ネギの作型開発(トンネル利用)</li> <li>無被覆栽培による6月どり作型の省力化</li> <li>9月どり作型での収量向上技術</li> <li>砂畑白ネギ栽培での除草剤の活用方法</li> <li>軟腐病・萎凋病を抑制する技術の開発</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6月どりトンネル作型において「羽緑2号一本太」、10月どり作型において「名月一文字」を有望品種として選定した。</li> <li>「初夏一文字」を用い、トンネルを3月上旬に除去することで、従来より2週間早い収穫が可能であった。</li> <li>6月どり無トンネル栽培では、せん葉処理により生育を停滞させることで抽苔をコントロールできる可能性が示唆された。</li> <li>家畜ふん堆肥は、夏場に窒素供給が多く、軟弱徒長となった。一方、木質系堆肥は、夏越し栽培に向くと考えられた。</li> <li>除草剤ロックスは100g/10aなら砂畑で薬害なく使用できた。</li> <li>軟腐病の少ない品種として、「大地の響き」「大河の轟き」が有望であり、薬剤ではオリゼメート粒剤の効果が高かった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白ネギ各作型における多収品種の選定(継続)</li> <li>5月どり一本ネギ作型の実用性検討(継続)</li> <li>6月どり無トンネル栽培技術の開発(継続)</li> <li>夏場の除草体系の検討(継続)</li> <li>軟腐病を少なくするための栽培技術の見直しと有効な栽培手法の検索(継続)</li> </ul>	
ニンジンおよびカンショの品種選定と栽培技術の確立	弓浜砂丘地分場	分場ほ場 18a	<ul style="list-style-type: none"> <li>初夏どりニンジンの高品質多収品種の検索</li> <li>秋冬どりニンジンの高品質多収品種の検索</li> <li>カンショ良食味多収品種の検索</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初夏どりニンジンでは「翔彩」が多収であったが、抽苔が数%である問題もあった。</li> <li>秋冬どりニンジンでは「アヤジェンヌ」が多収で有望品種と考えられた。</li> <li>カンショ「べにはるか」は、センチュウ耐性があり、連作3年目でも収量への影響は少なかった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初夏どりニンジン有望品種の選定(継続)</li> <li>秋冬どりニンジン「アヤジェンヌ」の栽培特性の把握、その他有望品種の選定(継続)</li> <li>カンショ「べにはるか」の連作4年目の評価(継続)</li> </ul>	

(令和3年3月31日現在)

事業名	(単)「輝太郎」を核としたカキ産地力強化に向けた栽培技術の確立		担当室別	河原試験地	
実施計画期間	令和元年度 ～ 5年度		(予算額) 支出済額	(1,161,000円) 1,140,000円	
試験研究 調査の目的	試験研究調 査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
輝太郎生産安定のための技術開発	河原試験地本場	輝太郎 河原試験地若木 75樹	1後期生理落果の実態を調査する 2輝太郎に適した施肥体系を検討する	(成果) 1後期生理落果は試験地約19%とやや多かった。永久樹と比べ縮間伐樹で落果が多い傾向が認められた。 2元肥を削除し半量を春に施用した区で、慣行の元肥区と元肥を削除し同量を春に施用した区と比べ、へた部果色がやや高くなったが、収穫時期に差は認められなかった。 3元肥施用区、元肥と同量を春に施用する区、元肥を削除し半量を春に施用する区を比較したが、生理落果や果実品質に差は認められなかった。  (課題) 1生理落果原因の解明や経年変動を調査する。 2輝太郎に適した施肥体系の確立	
輝太郎果実品質向上のための技術開発	河原試験地	輝太郎 河原試験地 若木80樹 ポット樹10樹	1全面マルチ(雨水遮断)及び環状剥皮の効果を確認する 2出荷時期前進化対策を検討する 3外観向上対策を検討する	(成果) 1環状剥皮により果実肥大・熟期促進・生理落果軽減効果が認められたが、汚損がやや増加した。汚れの少ない年でマルチの効果確認はできなかった。 27刈ロン乳により熟期が促進される傾向が見られた。 3摘葉処理により汚損やスレ果が減少し外観が向上したが、果実肥大が悪くなった。収穫期に差は認められなかった。  (課題) 1全面マルチ・環状剥皮効果確認の継続 27刈ロン乳剤及びハウス栽培による熟期促進効果の確認 3摘葉による外観向上と果重・糖度等へ及ぼす影響を検討する。	
既存品種の生産安定	河原試験地、本場	西条 河原試験地 成木35樹 富有 河原試験地 成木11樹 花御所 河原試験地 成木・若木17樹	1西条に適した施肥体系を検討する 2富有に適した施肥体系を検討する 3花御所の内部黒変果軽減対策を検討する	(成果) 1西条で元肥を削除し同量を春に施用した区では、慣行の元肥区と元肥を削除し半量を春に施用した区と比べ、へた部果色が低く収穫期が4～6日遅れた。 2富有で元肥を削除し同量を春に施用した区で、慣行の元肥区と元肥を削除し半量を春に施用した区と比べ、着らい数がやや増加し、果重が大きくなりへたすぎがやや増加した。 3花御所に石灰質資材を散肥することにより、内部黒変果が減少する可能性が示唆された。  (課題) 1西条・富有の施肥体系の確立 2花御所内部黒変果軽減対策の継続	
既存品種の生産安定	河原試験地、本場	西条 河原試験地 成木35樹 本場 幼木31樹 富有 河原試験地 成木11樹 花御所 河原試験地 成木・若木17樹	1西条に適した施肥体系を検討する 2西条に適した台木を検討する 3富有に適した施肥体系を検討する 4花御所の雄花の少ない優良系統を選抜する 5花御所の内部黒変果軽減対策を検討する	(成果) 1西条で元肥を削除すると翌年の着蓄数が減少した。元肥と同量を春に施用すると葉色がやや濃く、熟期が遅れたが、樹上軟化は軽減された。元肥は半量程度冬期に流亡していることが推察された。 2西条は台木の違いにより樹体生育量に差が見られ、山柿台で多く、禅寺丸台で少なかった。 3富有で元肥を削除すると翌年の着蓄数が減少した。元肥施用と春施用、春半減施用では差が見られなかった。 4雄花の少ない系統としてA、F系統が有望と考えられたが、樹勢や樹齢で変わる可能性が残された。 5花御所に石灰質資材を散肥することにより、内部黒変果が減少する可能性が示唆された。  (課題) 1西条・富有の施肥体系の確立 2西条台木試験は終了 3花御所有望系統選抜試験は終了 4花御所内部黒変果軽減対策の継続	

(令和3年3月31日現在)

事業名	(単)中山間地園芸作物の安定栽培技術の確立		担当室別	日南試験地	
実施計画期間	令和元年度～令和5年度		(予算額) 支出済額	(2,279,000円) 2,264,000円	
試験研究 調査の目的	試験研究調 査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
トマト‘りんか409’ の栽培特性に対応 したかん水施肥基 準を策定し、高品 質安定多収の実現 を図る	日南試験地	ハウス 8.6a	(1)生育ステージに応じたかん水・施肥技術の検討 ・ソーラーパルサーEのかん水量・株間の影響 ・かん水時刻と株間が収量と生育に及ぼす影響 (2)主要病害回避対策技術の検討 ・複合耐病性台木の選定 (3)補光等による9～10月の収量向上 ・微弱パルスLED光照射がトマトの生育および収量に及ぼす影響 ・高反射防草シートがトマトの生育および収量に及ぼす影響	【成果】 (1) ・6月、7月のかん水量を増加させることで3段以降の茎径が太くなり、草勢低下防止に一定の効果があると考えられたが、空洞果が多く、糖度も低下するなど、品質低下となるため、あえて増水する必要はないものと考えられた。株間40cmは10a換算総収量は多くなるが、可販果収量は株間50cmと差がなかった。 ・土壌水分が作期を通じて8時かん水区が乾燥気味に推移しており、かん水時刻による影響は判断できなかった。 (2) ・‘グリーンフォース’と‘キングバリア(旧‘TTM-127’)'が中高位段の草勢低下が少なく、収量が優れていると考えられた。 (3) ・微弱パルスLED光照射によって、主茎伸長、開花促進、収量向上の可能性が示唆されたが、糖度やSPAD値への影響は判然としなかった。 ・高反射型防草シートは株間50cmでは3段以下の茎径が太くなり、1割程度増収したが、株間40cmでは高反射区と慣行区の茎径はほとんど変わらず収量も同等だった。 【課題】 ・慣行の施肥基準と試験施肥体系の収量生育比較 ・クロマルハナバチ利用による省力化 ・微弱LED光照射による増収	
白ネギ省力化栽培 技術の確立と作型 前進化		ほ場 16a	(1)越冬大苗疎植栽培による7月どり作型の確立 ・チェーンポット直置き育苗による育苗期間短縮 (2)高品質多収技術の検討 ・品種特性の比較	(1) ・LP303-10(ロングピッチペーパーポット)を用いた12月、1月播種での7月どりの可能性が示唆された。定植密度を20本/mから30本/mに増やしても2L+L率に大きな差はなく、総収量を増加させられる可能性が示唆された。 ・剪葉長15cmでは生育停滞を招いた。20cm、25cmでは生育停滞は軽減されるが、苗の倒伏を十分に防ぐことはできなかった。 (2) ・盆前どり作型は‘MKS-N43’が有望と考えられた。9月どりは‘秋の宝山’、‘MKS-N43’、‘大地の響き’、‘源翠’が有望と考えられた。10月どりは‘大河の轟き’が有望だった。 【課題】 ・越冬大苗疎植栽培の7月どり作型の確立 ・各作型の有望品種の選定	
ブロッコリー作期拡 大試験		ほ場 16a	(1)初夏どり作型 ・初夏どり適品種の選定 ・低温期の生育促進技術の評価 (2)高温期どり作型 ・9月中旬収穫の適品種選定 ・高温期の花蕾腐敗症状対策の評価	【成果】 (1) ・‘Na070’が有望と考えられた。 ・風害の影響で調査株数が減ったこと、ボトニングが発生しなかったことから、施肥による影響は判然としなかった。 (2) ・‘令麟’が比較的品質が良好だった。 ・‘SK9-099’が有望と考えられた。 ・高うね栽培とハウス栽培により、腐敗が低下することが確認できた。 【課題】 ・品質評価(継続調査)	

(令和3年3月31日現在)

新規品目の栽培技術確立		ハウス 4a ほ場 12a	(1)アスパラガスの栽培技術の確立 ・拍動かん水装置による液肥栽培の確認 (2)トルコギキョウの9~10月収穫作型の適品種選定 ・播種時期の検討 ・適品種の検討 (3)少量多品目生産を支える品目の栽培技術確立 ・夏秋ピーマン新品種の栽培特性確認	【成果】 (1) ・拍動かん水による増収効果は認められず、かん水設定、追肥量の再検討を要した。 (2) ・播種時期は4月中旬から5月初めころまでが安定した栽培が可能と考えられた。 ・‘ハビネスホワイト(白)’、‘クラウンブルー(紫)’、‘パレオピンク’、‘コレゾライトピンク(ピンク)’、‘ルーセントマリン(紫覆輪)’、‘ミンクルージュ(ピンク覆輪)’が有望と考えられた。 (3) ・‘グッピー’は総収量は慣行の‘京波’と同等であるが、秀品率が高かった。2番果まで摘果することで、8月以降の収量低下を回避する可能性が考えられた。 【課題】 ・拍動かん水による増収効果の検証 ・トルコギキョウの有望品種の選定 ・バイオシミュラント資材による‘グッピー’の発根促進効果の検証
-------------	--	------------------	--	--

○意見、要望等

- |                    |      |
|--------------------|------|
| (1) 業務に関する意見・要望等   | 特になし |
| (2) 監査委員事務局に対する要望等 | 特になし |